

平成 29 年土石流調査情報（桜島地域） 第 23 報

（通算第 187 号）

- 桜島の噴火による降灰は、前年同期間（1 月～10 月）と比較して約 1.9 倍となっています。
- 土石流発生回数は、前年（平成 28 年 1 月～11 月）は 25 回であり今年は、17 回の発生となっています。

1 桜島の噴火による降灰の状況

平成 29 年 10 月 1 日から平成 29 年 10 月 31 日までの約 1 ヶ月の桜島 18 カ所の降灰量観測所における最大の降灰量は、野尻川観測所（No.10）で $2.5\text{kg}/\text{m}^2$ でした。また、降灰量の 18 観測所の 1 月から 10 月の合計値は、前年比で約 1.9 倍となっています。

資料－1 桜島の降灰量図

資料－2 降灰状況

資料－3 平成 28 年（1 月～10 月）及び平成 29 年（1 月～10 月）の降灰量比較

2 土石流の発生状況

平成 29 年 11 月 1 日～30 日の間、桜島の 11 河川においては、土石流は発生していません。

また、平成 29 年 1 月から 11 月末までの土石流発生回数は、平成 28 年の同時期の 25 回の発生に対し 17 回発生しています。

図－1 桜島の直轄河川位置図（全 11 河川）

資料－4 平成 28 年及び平成 29 年（1 月～11 月）の土石流発生回数比較

資料－5 各溪流における土石流発生状況（平成 28 年 1 月～及び平成 29 年 11 月）

資料－6 年間（暦年）・河川別土石流発生回数

3 土石流災害の危険性

平成 28 年の桜島における爆発的噴火の回数は、ここ数年に比べ極端に少なかったですが、平成 29 年 4 月 26 日の噴火以降、活発な噴火活動が継続しています。土石流の発生回数は、平成 27 年 1 月～12 月末までの 45 回に対し平成 28 年は 1 月～12 月まで 25 回発生しました。

平成 29 年の土石流の発生については、4 月に有村川において発生したのをはじめ、11 月末まで有村川、野尻川、黒神川において合計 17 回発生しています。

これまでの噴火により火山噴出物が堆積しているため土石流が発生する危険性が低下している訳ではありません。

※桜島の爆発的噴火の回数

平成27年1月1日～12月31日まで 737回

平成28年1月1日～12月31日まで 47回

平成29年1月1日～11月30日まで 81回

今後、鹿児島地方気象台及び鹿児島県より土砂災害警戒情報が発表されるような大雨が降るような状況の場合には、土石流やがけ崩れによる被害が発生する恐れがありますので、土砂災害警戒区域に指定されている地域では十分警戒が必要です。

資料-7 年間(暦年)・土石流発生と噴火回数の関係

資料-8 土石流発生直前の降水量(平成21年3月1日～平成29年11月30日)

4 今後の対応

九州地方整備局大隅河川国道事務所では、今後も桜島の噴火に伴う土石流等の調査を継続的に行い、適宜、情報提供させていただきます。

※この情報は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第31条第2項に基づく情報の随時提供です。

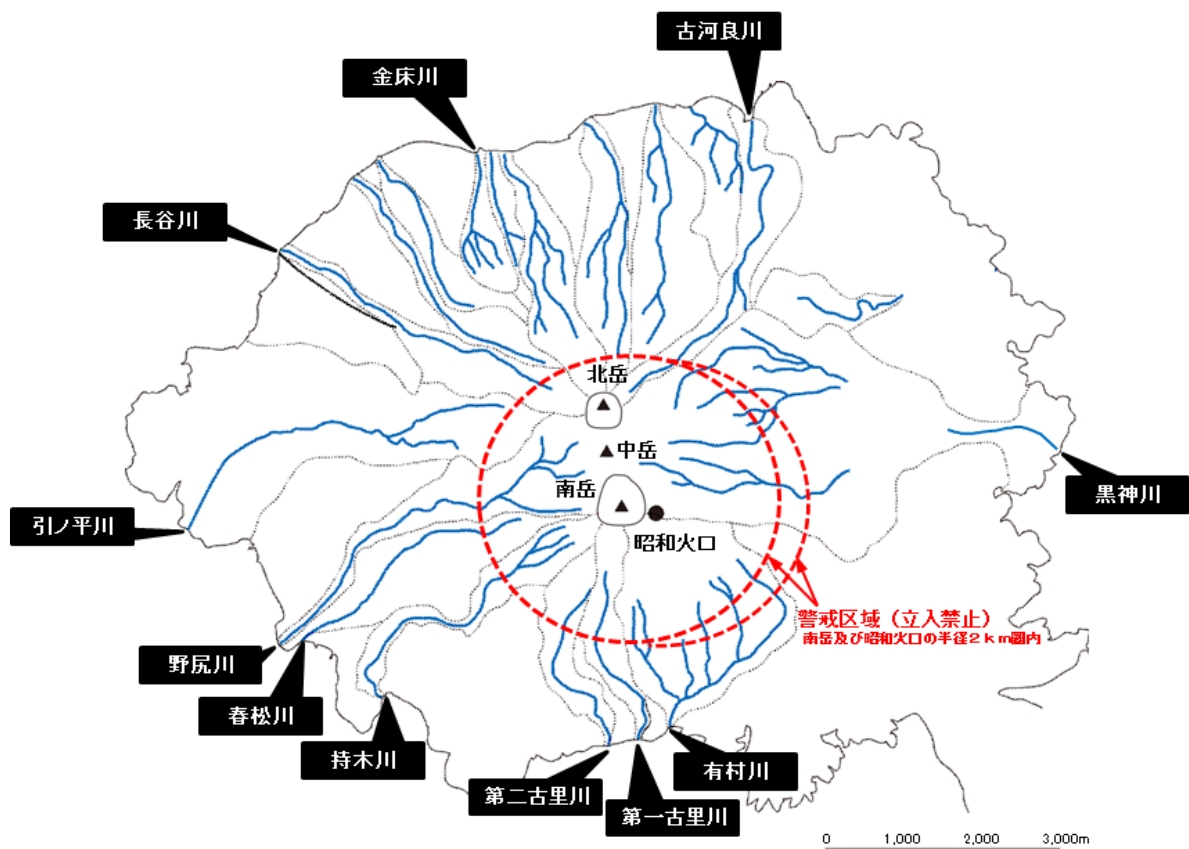


図-1 桜島の直轄河川位置図(全11河川)